



地域と学校連携の防災訓練

北条地区災害防災本部

本部長 江尻 東磨

小学校が一つに統合され、通学距離が長くなるなどの状況変化の中で、災害時の小学校から地域への児童引き渡し訓練を行いました。

これまであまり考えることがなかった「学校と地域」が連携した防災訓練は極めて重要なことです。

昼間、学校で授業が行われている時に地震が発生、被害の程度によっては学校から自宅に帰る事の出来ない児童が出る事も想定されます。

職場から戻ることが難しい保護者へ児童の安否連絡、父兄の状況など学校だけで対応は大変です。したがって、地域との連携が重要になります。

過去二度の大地震に見舞

われ、体験しましたが、単純な対策では対応が出来ない事が多いのです。

訓練は、非常ベルと同時に、各先生方の確かな判断でグラウンドへ脱出し、点呼。中学校の避難所へ移動、各町内に分かれ先生と町内会長（防災責任者）が一緒に児童の確認、引き渡し、保護者の到着を待った。その際、児童と町内会長との面識がなく戸惑いもありました。

災害時には、複数の事態が重なりますが、地域と学校の連携が不可欠。なお、地域でもいろいろ災害場面を想定し、安全、安心のまちづくりをしなければなりません。



北条地区
コミュニティ会
振興協議会
TEL25-3355



かとう ゆな

北条南小学校
校長 斎喜 和彦

学校は、家庭や地域からお預かりしている児童の安全と健康を最優先で守らなければなりません。

学校で行う定例の避難訓練は、火災発生、地震発生、不審者侵入の三種類の想定で行われています。通常は、学校内で始まり、学校内で終結する学校単独の訓練になります。

今回の避難訓練では、北条地区防災本部や町内会、筑波防災科学技術研究所の御協力をいただきながら、本部との無線連絡、北条中学校避難所への移動、町内会への児童の引き渡し訓練を追加して行いました。

災害は、いつなんどき発生するか分かりません。授業日の災害発生、電話や道路が不通になった状況で、けが人への対応、保護者や地域との連絡、引き渡しを

どのようにするのか大きな課題でした。今回の避難訓練は、地域との連携の重要性を再確認した訓練となりました。

地域が子どもたちの安全を支えてくれるという安心と信頼の関係は、コミュニティの一層の充実を促します。今後は、PTAとも連携を深め、災害時の行動計画を一層具体化していきたいと思います。

「北条毛利にしえロード」 リーフレット完成！

これまで、地区内の歴史・史跡名所・人物・行事等を広く・浅く紹介したマップはありましたが、そのマップのみでの現地探訪は不可能でした。

このたび完成したものは、北条城址一帯をそのマップだけで安心して散策できるよう、鳥瞰図と看板によるルート案内と北条毛利氏に関する年表を中心に構成しました。圧巻は弥太郎さん手書きの鳥瞰図です。希望者はコミュニティ事務局へ。

北条城址の「駅からのハイキング」を終えて

教育振興室
室長 丸山 智子

九月十二日(土)、J R と共催の「駅からのハイキング」には、ガイドボランティア養成講座で学んだ二十二人の講座生がガイド役として活躍しました。

この養成講座の指導者は平原順二氏。七回の学習会を経て、ガイドマニュアルブックを作成しました。学びの中から、全国に胸を張って誇れる歴史遺産があることを実感しました。

当日は天が味方をしてくれたのか、雨の予報が下山するまでは曇。本丸にはサプライズゲスト「弥太郎さん」が甲冑姿で参加者(130名)を待ち受けていました。休憩所(西方寺さん)では「暖暖」名物や特産品のつらなす等を販売し、北条をアピールする絶好の機会となりました。実施に至るまでには、登山道整備や草刈等、大勢の方々のお世話になりました。感謝申し上げます。